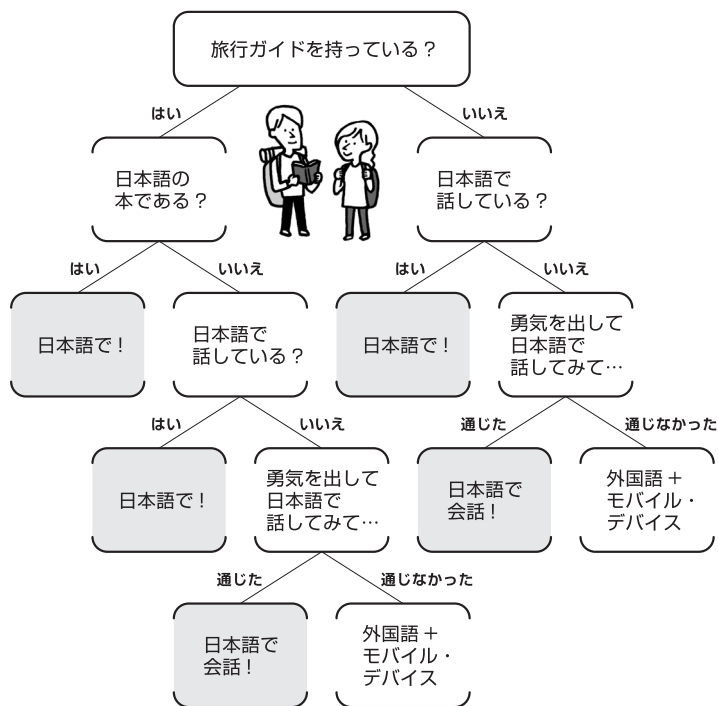


はじめに

ここは日本で、あなたの目の前には観光客と思しき外国人がいます。その人は、旅行ガイドブックを片手に持ち、目をキョロキョロさせながら空中を指さしています。その様子から察するに、どうやら道に迷ってしまったようです。さて、ここで質問です。あなたは特に用事がなく、急いでいるわけではないとしたら、この状況でどう行動しますか。

さまざまな回答があるでしょう。例えば、「英語で話しかける」「見て見ぬふりをし、ほかの親切な人に任せる」「様子を見る」などです。回答は人それぞれあるかと思いますが、ほかにも考えられる行動があります。それは「**日本語で声をかける**」です。このように書くと、「わざわざ日本語で話しかけても、どうせ通じないし、意味がないでしょう」と考える人もいるかもしれません。しかし、もしその外国人が来日前に少しでも日本語を学んでいたとしたら、あるいは、もしその人が観光客ではなく日本に住む外国人だとしたら、日本語で話しかけても会話が成立する可能性は十分にあります。

次ページの図をご覧ください。これは、外国人とのコミュニケーション方法を決定する際、ポイントとなる条件を状況別に分け、チャートにしたものです。先述の道案内の場面において、どのコミュニケーション方法が最適でしょうか。



▲ 状況別のコミュニケーション法チャート

この図で「日本語で！」に辿り着いた場合は、日本語で会話を行うことができます。そして、日本語が通じて「日本語で会話！」に行き着いた場合も、そのまま日本語で会話を続けることができます。一方、日本語が通じなく「外国語 + モバイル・デバイス」に行き当たった場合は、外国語を使ったり、モバイル・デバイスによる翻訳・通訳アプリを利用したりするなどして、対応することができます。

近年、日本を訪れる外国人の数は増えています。彼らとのコミュニケーションは、自ら語学力を身につけたり、語学力がある人に通

訳をしてもらったりするなど、さまざまな手段が考えられます。本書では、そのような視点から離れ、日本語が少し話せる外国人に対してどのような日本語を使えば理解してもらえるか、そして外国人と楽しく交流するための日本語コミュニケーションのポイントは何かを、普段外国人に日本語を教えている日本語教師の視点からお伝えします。

私はこれまで、年少者、大学生、社会人、地域に住む人々などさまざまなバックグラウンドを持つ学習者を対象に、日本国内外で日本語を教えてきました。そうした多くの人々と接する中で、次第に日本語教育の知見を一般社会においても役立てられないかと考えるようになりました。そして、日本語教育に従事する一方で、観光業従事者や地域市民向けの「外国人に伝わる！日本語コミュニケーション実践講座」の実施や、インターネットセミナー動画の公開などを行ってきました。本書は、私がこれまで実施してきた講演やセミナーの内容を整理してまとめたもので、より多くの方がそのノウハウを活用し、外国人と円滑に交流できたらという思いから誕生しました。

本書では、入門レベルの日本語を学んだ経験のある外国人として、30～50 時間ほど学習した外国人を想定しています。この時間数は、次の3 点から算出しました。

- ①日本の大学の1 コマである 90 分× 15 週の入門クラスに参加した場合、学習時間数は 22.5 時間で、外国語科目は通常 1 週間に複数コマ展開されることが多く、その総学習時間数は 30 時間以上になるから。
- ②私が教えていたイギリスの語学学校での入門コースは、2 時間× 15 週で計 30 時間であったから。
- ③海外の日本語教育機関においても、多くの入門コースは 30～50 時間程度で設計されているから。

これらの理由から、30～50 時間ほど学習した外国人とのコミュニケーションを想定することにした。もちろん本書で紹介する内容は、学習時間 50 時間以上の人に対しても適用可能です。

なお、本書において「日本語」と表記されているものは、特別な断りがない限り「東京方言を基盤とする共通語」を意味します。また、本書中に使われる「外国人」とは、「幼児のときに身につけた言語（母語）や、第一にうまく使いこなせる言語（第一言語）が日本語ではない人」のことを表します。合わせて、「日本人」とは、「母語や第一言語が日本語である人」のことを表します。便宜上使っていることばですので、外国人・日本人を分け隔て、優劣をつける意図は一切ありません。ご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、本書が外国人との交流の際、お役に立ち、楽しいひとときを過ごす一助になれば、筆者としてこれほど光栄なことはない所存です。

2018 年 5 月

高嶋 幸太

目 次

はじめに	1
本書の構成	8

第 1 章

日本語で外国人とコミュニケーションができる	11
-----------------------	----

1 外国人とどう接する？	13
2 なぜ日本語でコミュニケーションするのか？	16
3 外国人も日本語を使ってみたい	22

第 2 章

外国人に伝わる日本語で話す	27
---------------	----

1 自己紹介をする	28
～名詞文で自身について説明しよう～	日常 留学 学校 職場
2 今週末の予定を話す	34
～動詞文で何をするか伝えよう～	日常 留学 学校 職場
3 先週の京都旅行について話す	38
～形容詞文で感想を伝えよう～	日常 留学 学校 職場
4 予定を聞いて誘う	42
～「～ませんか」「～ましょう」で勧誘しよう～	日常 留学 学校 職場
5 好みを尋ねる	46
～「～が好きです」で嗜好を確認しよう～	日常 留学 学校 職場
6 駅案内をする	50
～記述して大切な情報を伝えよう～	日常 観光
7 道案内をする	54
～指さして場所を示そう～	日常 観光

8	写真撮影を手伝う	58
	～身振り手振りを使って説明しよう～	日常 観光
9	時間を述べる	62
	～モバイル・デバイスを活用しよう～	日常 観光
10	コンビニで買い物をする	66
	～具体的に要望を伝えよう～	日常
11	ホーム・ビジットで話す	72
	～疑問文を使って印象・感想を聞いてみよう～	日常 留学
12	留学生に大学の施設を案内する	78
	～動詞文で校内を説明しよう～	留学 学校
13	留学生に授業について説明する	82
	～記述して情報を整理しよう～	留学 学校
14	体調不良の児童生徒に話しかける	86
	～指さしを使って症状を把握しよう～	学校
15	児童生徒の家庭に連絡事項を伝える	92
	～最初に情報の全容を述べよう～	学校
16	社外と日程調整をする	97
	～日時の伝え方を工夫しよう～	職場
17	社内で業務の依頼をする	102
	～「～てください」でお願いしよう～	職場
18	デパートでフロアガイドをする	106
	～地図を使って位置を示そう～	日常 観光
19	衣料品店で接客する	112
	～選択肢を提示して理解を促そう～	日常 観光
20	商品案内をする	116
	～名詞文で商品を説明しよう～	観光
21	荷物発送の対応をする	120
	～繰り返して確認しよう (1) ～	日常 観光

22	飲食店が電話で予約を受ける	124
	～繰り返して確認しよう (2) ～	日常 観光
23	飲食店で接客する	130
	～指さしで注文を確認しよう～	日常 観光
24	宿泊施設でチェックインの対応をする	135
	～数字を正確に伝えよう (1) ～	観光
25	宿泊施設でチェックアウトの対応をする	139
	～数字を正確に伝えよう (2) ～	観光

第 3 章

外国人から見た日本語を知る

1	外国人から寄せられる日本語に関する質問	147
2	日本語の音声	151
3	日本語の文字・表記	153
4	日本語の語彙	158
5	日本語の文法	160
6	日本語のあいさつ表現	163
7	日本語の数字	166
8	日本語学習用の教科書における文体	170

付録	日本語で外国人と話すための語彙一覧	175
----	-------------------------	-----

おわりに 177

参考文献・参考資料 179

索引 180

○第 2 章について

外国人と接する場面を以下のように分け、記号をつけています。

日常	日常生活	職場	職場での場面
学校	学校生活	観光	観光での場面
留学	留学生との場面		

1 外国人とどう接する？

ここでは、私が実際に外国で体験したエピソードを紹介し、外国人とどう接するかを考えていきます。次の事例①は、私が初めてイギリスを旅行したときの話です。

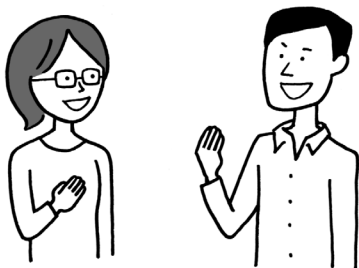
事例①

その日は、日帰り観光でロンドンのパディントン駅からオックスフォードまで行こうと考えていました。パディントン駅に着き、早速オックスフォード行きの電車の往復券を買おうと発券機の前に向かいました。しかし初めての発券機の前で困り果ててしまいます。というのは、タッチパネル上には情報が溢れかえっており、どこに往復の日帰りチケットを買えるボタンがあるのか、そして行き先であるオックスフォードのボタンはどこなのか、戸惑ってしまったからです。発券機の前で固まっていると、後ろで待っていた現地在住だと思われるイギリス人の女性が何やらこちらに話しかけてこうとします。操作が遅すぎたから文句を言われるのだろうと覚悟していると、彼女は一言“May I help you? (手伝いましょうか)”と声をかけてくれたのです。すかさず私は「日帰りでオックスフォードを観光しようと考えている」と英語で伝えると、どこに日帰り往復券のボタンがあり、行き先はどこから検索できるかなどを丁寧に教えてくれました。あとになって考えてみれば、私はそのときに旅行のガイドブックを持っていたし、その場に馴染んでいなかったのも、明らかに観光客だと思われたのでしょう。



自己紹介をする

～名詞文で自身について説明しよう～



あなたの目の前に初対面の外国人がいます。日本語を少し学んだその外国人に、自己紹介をしてください。

内容 内容

①あいさつ

②名前

③仕事



失敗例

- あなた こんにちは。私の名前は田中と申します。
- 外国人 はじめまして、ヤンです。
- あなた ヤンさんはどちらの国からいらっしゃったんですか。
- 外国人 え……すみません、何ですか。
- あなた あ、ご出身はどちらのお国ですか。
- 外国人 あ、出身。フィリピンです。
- あなた あ、そうですか。お仕事は何をなさっているんですか。
- 外国人 え？お仕事ですか。
- あなた はい、お仕事。
- 外国人 システムエンジニアです。田中さんは。
- あなた 私は西東京物産に勤めていて、サラリーマンをしています。
- 外国人 ああ、そうですか。

改善例

あなた はじめまして、田中です。

はじめまして、ヤンです。 外国人

あなた ヤンさん、お国は。

フィリピンから来ました。 外国人

あなた そうですか。お仕事は。

システムエンジニアです。田中さんは。 外国人

あなた 私は会社員です。どうぞよろしく。

どうぞよろしく。 外国人



解説

「失敗例」のほうは、外国人がやや戸惑い気味で、会話がスムーズでない印象を受けます。なぜこのようになってしまったのか、その原因は主に2つ考えられます。

まず1つ目は、田中さん（あなた）が「申します」「いらっしゃった」「なさっている」などの敬語表現を使っている点です。敬語の使い方は日本人でも難しく、特に外国人が日本語学習において敬語を学ぶことになるのは、基本的な表現の学習を終えて、少し段階が進んだあとになります。この場面で敬語を使ったとしても、外国人には通じない可能性が高いと言えます。そういった理由から、出身や仕事を聞かれても、外国人のヤンさんはなかなか意味がわからなかったのでしょうか。

2つ目は、1文が長くなっている点です。例えば日本語を少し学んだ外国人にとっては「私の名前は田中と申します」「私は西

1

外国人から寄せられる 日本語に関する質問

まずは日本語に関するクイズを3問出題します。これらはいずれも日本語を学ぶ外国人からよく寄せられる質問です。それぞれの答えを考えてみてください。

問1

「銀行に勤めています」

「銀行で働いています」

なぜ銀行とともに使われる助詞は「に」「で」のように異なるのでしょうか。

問2

「晩」と「夜」の意味上の違いは何でしょうか。

問3

「それは何ですか」「何を食^{なん}べますか」のように、漢字の「何」は「なん」と「なに」のように読み方が2つあります。どう使い分けているのでしょうか。

それでは解答です。

問1

「に」は基本的に存在・所在する場所を表します。例えば「東京に住んでいます」「東京にいます」という文の「に」は、それぞれどこにいるかを表しています。「銀行に勤めています」は継続して銀行に在籍・所属していることを表すので、「に」が使われます。

一方、「で」は基本的に動作が行われる場所を表します。例えば